（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ハウス　叶			
○保護者評価実施期間	令和8年3月23日	～	令和8年3月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	33人	（回答者数）	15人
○従業者評価実施期間	令和8年3月23日	～	令和8年3月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6人	（回答者数）	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門家が常駐し、集団、個別において支援が行えていること。	常に切磋琢磨し合い、アセスメントを繰り返し行って現状に甘んじない事。	専門的知識と経験を活かした療育、アドバイスを行うため、学会発表を行う。
2	個別療育で学びを得て、集団で汎化できるよう支援を行う。	それぞれの特性に合わせて、学びをどこに入れるのかをアセスメントし、より効果的な学びが行えるようにしている。	実際に学校へ訪問し、アセスメントを深めて支援に取り入れる。
3	重度心身障がい児から思春期まで幅広い特性や性別、年齢に支援を行える。また、同施設内に就労継続支援、計画相談支援もあるため、就労に向けても広い視野を持って支援が行える。	それぞれの個に合わせた支援、また主体性を活かした関わりを意識している。 また専門性を活かした認知行動療法や性教育も行っている。	実際に学校へ訪問し、アセスメントを深めてその子に応じた成長の在り方を助言する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の築年数。	周辺環境は良いが、1階と2階を利用するため目が行き届かなくなること、また就労移行支援との多機能で行うには狭いと感じる。	来年度は新施設を近くに建て、それぞれが独立した過ごしやすさ、環境設定を行う。
2	利用児童が多く、障がい特性が多岐にわたること。	より専門性を求めるため、職員のレベルとスキルアップが求められる。そのため人員不足におちいることがある。	スキルアップは外部講師の研修、心理士のカンファレンスを行っているが、一定基準を満たした専門性のあるスタッフを雇う必要がある。そのためには利益も考え運営しないといけない。
3			